



瑞浪市青少年育成市民会議だより 第20号

笑顔あふれるみずなみ

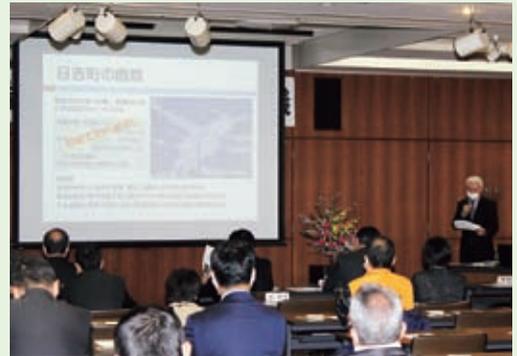
『みとめて ほめて はげまして』 みんなの力で健やかに

〔発行〕 瑞浪市青少年育成市民会議 〔編集〕 市民会議専門部会 広報部会

令和4年度 第2回 瑞浪市青少年育成市民会議総会



市民会議総会



日吉町青少年育成町民会議発表



感謝状の贈呈

青少年育成貢献者に感謝状贈呈、青少年育成活動モデル地区(日吉町)発表

2月4日(土)に瑞浪市総合文化センター講堂にて開かれた第2回瑞浪市青少年育成市民会議総会において、各理事より令和4年度の市民会議の活動報告、青少年育成に貢献された方々への感謝状の贈呈、青少年育成活動モデル地区(日吉町)の実践発表が行われました。

実践発表では、方針「共に育つ町民行動」をもとに、「ふれあい活動の実践」を目標にして、教育部会・青少年部会・民生部会の活動内容と「中学生と語る会」の様子が紹介されました。青少年のたくましく豊かな心身を養う具体的な地域活動の様子や成果が多くの写真で紹介されました。

青少年育成にかかわる各種組織より推薦をいただき、被顕彰者選考委員会にて選考された青少年育成に尽力くださった個人並びに団体に対して、市民会議会長である水野光二市長より感謝状が手渡されました。

被顕彰者

小木曾 篤(上平町：少年センター指導員)
遠藤 将寿(土岐町：少年センター指導員)
山口 健治(稲津町：地域学習支援ボランティア)
瑞浪北中学校陸上クラブ(代表：小木曾謹也)

横山 知明(土岐町：少年センター指導員)
中山 修(稲津町：学校学習支援ボランティア)
井籠三和子(稲津町：学用品ボランティア)

「子ども・若者育成支援強調月間」 啓発活動

今年度も新型コロナウイルスの感染防止の観点から、文化祭が中止になる地区もあり、10月～11月にかけて開催された市内3会場のみで「子ども・若者育成支援強調月間」の啓発活動を行いました。

「青少年の健やかな育成に対する市民の理解を深めるとともに、各種活動への積極的な参加と日常的な行動を促し、次世代を担う子供・若者の育成支援の一層の充実と定着を図る」ことを目的に、各文化祭の折に啓発活動用のリーフレット・ポケットティッシュ・マスクの配布を通して、強調月間や市民会議の活動の周知に取り組んでいます。

稲津公民館文化祭でも、町民会議関係者、市民会議専門部会員、少年センター指導員の方々にご協力をいただきました。

内閣府が毎年11月を「子ども・若者育成支援強調月間」とし、各自治体が啓発に取り組んでいることはまだまだ知られていないのが現状ですが、啓発物を配っていると「前回の文化祭でも活動されていましたね。」と言葉を添えて受け取ってくださった方もみえました。こうした地道な活動が強調月間や市民会議の活動を知っていただく第一歩だと改めて感じました。

また、中央公民館文化祭における啓発活動は、2月12日(日)に中京高等学校・瑞浪高等学校の生徒と市民会議本部役員、瑞浪地区・土岐地区・明世地区の代表者・理事にて行いました。高校生が来館者に声をかけながらリーフレット・ポケットティッシュ・マスクの配布を進んで行ってくれました。(和田 建司)

日吉町文化祭 10/15



稲津町文化祭 10/23



大湫町文化祭 11/3



中央公民館文化祭 2/12





「18歳成人について ~大人とは~」

3年ぶりに、中京高等学校・麗澤瑞浪高等学校・瑞浪高等学校の生徒と青少年育成市民会議家庭地域教育事業部会・町民会議の皆さん約60名の参加を得て、「高校生と語る会」を開催しました。

全体会の後、グループごとに会場を分けた分散会にて、民法の改正による「18歳成人」について高校生の司会で意見交流をし、最後に全体会にて交流内容の報告をしました。



参加した高校生等の声

- ・18歳で成人になり、選挙権があったりクレジットを組めたりするが、自信がなく不安という人と、成人になるのが楽しみという人がいる。
- ・投票を早くしてみたい。若者のための政策を実現してほしい。
- ・18歳に投票に来てほしいと言うけど、誰に投票していいか正直分からない。自分なりに情報を判断する必要がある。
- ・成人となりできることが増えることはうれしい。一方、ネット社会に慣れている年代のため、疑うことが少なく、トラブルの心配もある。
- ・18歳成人は民法上のこと、「18歳成人=大人」ではない。自分で物事を判断して、働いて自立した生活を送れるようになることが大人ということではないだろうか。
- ・18歳は成人だけど、高校生としての立場はわきまえる必要はあると思う。
- ・18歳成人は20歳までにできることに備えるための準備期間と考えたい。
- ・大人には未成年者よりも自由があるが、大きな判断をしなければならないことが増える。責任とそれを成し遂げるための努力が必要になる。
- ・成人や大人を難しく考える必要はない。今を大切に自分の知識を豊かにする努力をしたい。
- ・18歳成人であろうと、自分で判断できない時は、親などに相談するべき。
- ・成人を迎えるにあたって、広く情報を得ること、何かあった時に相談できる人を作っておくことが大切だと思う。



日吉町のコミュニティ・スクールの取組

日吉公民館長 安藤 徳善

目指す子どもの姿：地域を担う子に育てる

～日吉を知り、日吉から学び、日吉のことを考え、行動できる子を育てる～

これまで、町民は子どもたちを支援しているのに、今なぜコミュニティ・スクール化が必要なのか。私は、「日吉地区でコミュニティ・スクールを発足させる第一の目的は、日吉町を愛し、日吉町に残ってくれる子どもを、また、日吉から離れても将来日吉に戻ってくれる子どもを一人でも多く育てるため」だと考えます。「地域で大切に育てられた子どもは、将来大人になってから地域のためになるように考えるようになる」そうです。以下に、日吉小学校コミュニティ・スクールの取組を紹介します。

1 日吉小学校の学校運営協議会について

令和4年度から学校運営協議会がスタートした。令和3年度に準備委員会を立ち上げ、「日吉小学校コミュニティ・スクールの構え」「目指す子どもの姿」等を協議した。協議会のメンバーは、まちづくり推進協議会長、区長会長、公民館長、社会教育委員など24名よりなる。部会として、「学習支援部会」、「環境・安全部会」、「地域活動部会」の3部会制をとる。目指す子どもの姿を、「地域を担う子に育てる」（日吉を知り、日吉から学び、日吉のことを考え、行動できる子を育てる）とした。

2 日吉地区における地域学校協働本部及び活動について

日吉小学校コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の基本的な考え方は、「子どもに軸足を置き、これまでの活動を見直し工夫改善を加えていく。町民が負担感を感じるような組織、運営にしない。活動に参加して良かったと思える活動にする。」ことを目指しているため、過重負担となりかねない地域学校協働本部は立ち上げず、学校運営協議会を母体として活動していく。学校運営協議会の活動拠点は、日吉小学校及び日吉町まちづくり推進協議会の事務局を担う日吉公民館に置く。

3 日吉小学校コミュニティ・スクールの新しい取り組み

①日吉町挨拶運動

→「子どもサミット」を開催し、子どものアイデアによる「挨拶標語のぼり旗」を作り、子どもも大人も気持ちのよい挨拶ができる町を目指す。

②町民が入りやすい学校、児童とのふれあいのある学校づくり

→「青色回転灯パトロールによる下校時のバス待ち児童の見守り」「ふれあい学校環境整備」等

③これまでの事業の工夫改善

→3部会の活動を加味した「学校行事計画」の作成

④「子どもは日吉の宝」の制作と活用

→見守り隊のベストに印刷した「子どもは日吉の宝」の文字により、児童に町民の思いを伝える。



子どもサミット



挨拶のぼり旗



児童の見守り



子どもは日吉の宝

「年末清掃ボランティア活動」

12月17日(土)

令和4年12月17日(土)に、瑞浪市総合文化センターを起点に、JR瑞浪駅前から土岐川周辺までの市街地を中心に清掃活動を行いました。例年年末にはJR瑞浪駅周辺および地下道のガムをはがしと清掃を行う『「無ガム中」大作戦』を環境改善事業部会で行って来ましたが、コロナ禍での事業として噛み捨てたガムをはがす活動の実施には不安があったため、代替事業として本清掃活動を行いました。コロナ禍により環境改善事業部会の清掃活動は、令和2年～令和3年と中止となっていたので3年ぶりの開催でした。

当日は、師走らしい曇天で体感温度もかなり低く底冷えするなか、市内各中学校・高校の生徒さんや先生方の参加が多数ありました。参加していただいた学校は、瑞浪中学校、瑞浪北中学校、瑞浪高等学校、中京高等学校、これに瑞浪市青少年育成推進員・岐阜県青少年育成推進指導員や社会教育課職員も参加し、総勢40名ほどが、学校毎に4つのルートに分かれて清掃を行いました。

翌日に開催される「バサラ カーニバル」(これも3年ぶり)のためか、市街地はおおむね綺麗でゴミ等は一見無いようにも見えましたが、参加された生徒さんたちの手により可燃ゴミ・不燃ゴミ合わせて5袋分のゴミを回収することができました。

参加された中学校・高校の生徒さん達は、自分たちが住み・学んでいる瑞浪市の市街地が自分たちの手で清掃できた事に対し清々しい達成感を感じているようでした。

今回の「年末清掃ボランティア活動」は、長年実施してきた『「無ガム中」大作戦』の代替事業との位置づけでしたが、今後のウィズコロナの中でのボランティア活動を考える上で大変意義のある事業であったと思っています。

来年度は、さらに活動の仕方を工夫して、有害環境の改善を青少年の皆さんと共に図っていただけるようにしたいと思います。

(岩島 辰也)



中京高等学校



瑞浪中学校



瑞浪高等学校



瑞浪北中学校



ボランティア活動に参加した中・高校生

「家庭の日」を実践しましょう！

「家庭の日」運動は、昭和30年に鹿児島県の小さな町で生まれました。家庭の中での家族の絆が薄れつつあることから「家族を大切に」という願いと、当時ほとんど休みのなかった農業従事者のために「農休日」という考えが一緒になって生まれました。

岐阜県では昭和42年に条例を設置し、「岐阜県家庭教育支援条例」の第18条に「家庭教育を実践する日」が位置づけられました。積極的に家庭教育を実践する意欲を高めるため、毎月第3日曜日を「家庭の日」、毎月8のつく日を「早く家庭に帰る日」としています。また、1月は『「家庭の日」普及実践強調月間』となっています。

家庭は、ふれあいと安らぎの場であるとともに、青少年の人格が形成される基盤です。また、人との関係のあり方や社会のルールを学ぶ場でもあります。これらのことを家庭や地域が再認識し、「心豊かで明るい家庭」づくりを進めることが望まれます。「家庭の日」をきっかけに、家庭の大切さや家族のあり方について考えてみましょう。家族みんなで過ごす機会をできるだけ多くもつことで、絆を深め、明るく楽しい家庭づくりをすすめるきっかけとなる具体的な取り組みとしては、以下のようなものが考えられます。



- 「瑞浪市ケータイ・ゲーム機・ネットに関する家庭のルール」や「話そう！語ろう！わが家の約束」に取り組む
- ノーテレビデーやノーゲームデー等に取り組む（家族で読書や音楽鑑賞等をする）
- 1日のこと、将来のこと、地域のこと、社会の話題等について、家族みんなで話し合う
- 早寝・早起き・朝ごはん・挨拶をし、お手伝いをする
- 「家庭の日」啓発画・ポスターに応募する
- 家族で地域行事やボランティアに参加する等の体験活動をする
- 家族そろって、イベント（食事作りや遊び等）やスポーツをする
- 家族で夕食を共にし、家族みんなで後片付けをする など、誰でもどこの家庭でもできる内容です。

1年の活動を振り返って

岐阜県青少年育成推進指導員 曾我 順一

瑞浪市民の皆様には、日頃より青少年育成活動にご理解とご協力を賜りましてありがとうございます。

令和4年度も瑞浪市青少年育成のスローガン「みとめて ほめて はげまして みんなの力で健やかに」のもと、各地・各場所で、青少年育成推進員の皆さんと活動してきました。新型コロナウイルス感染に留意し、万全の対策を取りながらの活動でしたが、一部の事業で新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止の事業もありました。

そんな中、瑞浪市主張大会は感染対策をした上で、6月12日(日)瑞浪市総合文化センター講堂にて開催いたしました。本年は、小学生7名・中学生3名・高校生3名・一般1名の方が代表として登壇され、令和元年以来3年ぶりにすべての部門で参加があった年となりました。舞台上に立った発表者は、自分の思い・考えを視聴者にしっかり伝える真剣な姿が印象的でした。また、司会進行や審査補助など大会運営に高校生の皆さんが積極的に協力をしていただけました。8月2日(火)に多治見市で開催された少年の主張岐阜県大会には、本市の中学生代表の恩田民緒さん(瑞浪南中学校)が東濃地区予選を経て出場されました。

10月1日(土)の「高校生と語る会」では、「18歳成人について～大人とは？～」をテーマに18歳で成人になる自覚と不安や権利と責任について熱心に討論され、お互い刺激を受けあう会となりました。

10・11月は「子ども・若者育成支援強調月間」啓発活動として、各地区の文化祭にあわせて啓発グッズの配布を通して、市民の皆様はこの活動を知っていただく機会としました。

新型コロナウイルス感染の状況をみながらの活動ではありましたが、多くの市民の皆様のご協力により事業が実施でき心から感謝申し上げます。また、令和5年度はウィズコロナのなかで、本来の活動が皆様のご協力のもと実施できるよう願っております。

令和5年度 主な年間行事(予定)

- 5月21日(日) 第1回青少年育成市民会議総会
- 6月18日(日) 瑞浪市主張大会
- 10月7日(土) 高校生と語る会
- 2月17日(土) 第2回青少年育成市民会議総会